

第37回磯子まつり

地元 特集

パレード11年ぶりに復活

磯子まつり ってどんな お祭り??

「磯子まつり」は1974年に区制50周年を記念してスタートした。区民が主役となるお祭りである。

9月末の「磯子まつり」を中心に、約2ヶ月間に渡り、「磯子まつり月間」として、磯子区内各所で区民による手づくりのイベントが開催されている。

区役所の前を通る産業道路の一部を歩行者天国にして、区役所や磯子センターなどを含めた地域を会場とし、パレードなども行われていた。しかし、2002年にパレードが行わなくなり、四年後の2006年には歩行者天国も行われなくなった。しかし、住民からは、長年続いてきたパレードの復活を望む声が多数上がっていた。それを踏まえ、区は昨年のおまつりで、産業道路沿いにある歩道「磯子アベニュー」を使ったフリーマーケットを実施。道路を使い、パレード再開を見据えた準備を進めてきていた。

そして今年、11年ぶりに磯子まつりにパレードが戻ってきた。(船見)



放水操法を披露する磯子消防団

このパレードの最後を締めくくったのは、磯子消防団による操法デモンストレーション。小さな水を狙って放水するというもの。消防団の迫力のあるパフォーマンスに、会場からは大きな歓声と拍手が巻き起こった。

磯子区区内在住の男性に、今回の磯子まつりのパレード復活について、話を伺ったと

十一年ぶりの復活を遂げたこのパレードは、午前十時四十分ごろに磯子区役所前をスタートした。



演奏し行進するマーチングバンド

毎年恒例の行事「第三十七回磯子まつり」が九月二十九日(日)に、磯子区総合庁舎一帯、磯子センター、磯子土木事務所などで行われた。また、今年も、区役所の前を通る産業道路で、二〇〇二年以来となるパレードが十一年ぶりに復活した。

實廣先生(国語科)の

「喜 怒 哀 楽」

今回の喜怒哀楽は、国語科の實廣美樹(じつひろみき)先生。實廣先生は喜怒哀楽の四字の中から「喜」を選択した。

また、学校で「喜」を感じたことはないかと、「夏休み前頃から、ある生徒が倍率が十倍近い学校のAO入試に合格するため、面接練習を何度も何度も繰り返し、我が子を見守るように、全力でサポートをしてきた。その生徒

は、練習を積みにつれて次第にどんな質問にもすらすら答えられるようになり、質問に対する的確な回答も出せるようになってきたところで入試本番を迎えた。そして、見事に合格することができ、その通知を知った時は、本当に嬉



楽しそうに話してくれた實廣先生

しかった」と嬉しそうに話してくれた。最後に、實廣先生の考える「喜」について、生徒にコメントを頂くと、「高校生の間は、一つの事だけを努力していくのではなく、幅広い視野を持って、いろいろなこと興味、関心を持つてほしい。そこから自分の一番気に入ったものを自分のものにして、それを深めていくって本当の《喜》を見つけてほしい」と話してくれた。(船見)

磯子国際交流フェスタ

磯高生が今年も参加

十月十四日(月)に、磯子まつりの応援イベントの 일환として行われている「第十一回磯子国際交流フェスティバル」が今年も開催された。こ

のイベントに、本校空手道部がステージ発表、本校生徒がボランテアで参加した。今年もステージ発表の先陣を切って登場したのが本校の空手道部。日頃の練習で鍛え上げた技を披露し、迫力のあるパフォーマンスで会場を盛り上げた。

ボランテアで参加した生徒は、会場での物販やテントの設営、会場案内などを行った。また、本校の卒業生も参加しており、「こうした活動をもっと多くの生徒にも参加してもらいたい」と、在校生へ向けコメントした。(船見)



磯子区の飲食店が多数出店した会場

編集後記

今年には部員数が少なく、私も受験生という立場であり、大規模な取材が困難でした。そんな

中、作業もなかなかうまくいかずに、印刷業者の方に期限を引き延ばしてもらい、期限ギリギリまで作業を続けました。ようやく完成にこぎつけることができ、安堵しました。

こんな委員長にも、最後までついてきてくれた後輩たちには感謝すると共に、これからも伝統を受け継いでいてもらいたいと思います。(船見)